

福山大学 人間文化学部 2020年度 自己点検・評価書

基準1. 理念・目的	
領域: 使命・目的、教育目的	

2020年度

人間文化学部

中長期計画	学科長会議及び学部将来構想委員会で学科(大学院を含む)の将来構想を検討中であるが、人間文化学部の理念目的が根底から変わることはない。 ただし、学科名称変更(2016年度4月にメディア情報文化学科をメディア・映像学科へ変更)、カリキュラム変更(公認心理師への対応)、資格変更(人間文化学科の教員免許の科目変更)などの場合には使命・目的との整合を必ず確認する。
--------------	---

2020年度

人間文化学部

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的及び教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	人間文化学部は本学唯一の人文系学部として総合大学としての重要な役割を担っており、かつ現代社会の在り方を問う意義はより大きくなっていることから、人間と社会・文化を探究するという学部の理念は適切だと考えられる。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	特になし
根拠資料	①2020年度学生便覧
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	3学科ともに、近隣大学の類似学科との差別化を図るための努力をしている。心理学科は公認心理師養成と幅広い分野構成、人間文化学科は英米に限定されない外国文化と地域の歴史と文化、メディア・映像学科はCG・映像表現を特色とする
年度目標	現状維持であるが、3学科の個性・特色の変更等が検討される場合は学部の個性・特色と調和するよう調整を行う。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2020年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	特になし。
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	各学科で検証したものを学部将来構想委員会、学部教授会等で定期的に検証を行っている。
年度目標	現状を維持するが、学科で検討され、大きな変化がある場合は学部でも検討を行う。
年度報告	各学科の検討において大きな変化は見られず、現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①心理学科議会議事録 ②メディア・映像学科ブログ
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間文化学部

中点検項目	1-2. 使命・目的及び教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的及び教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	教育目的と3ポリシーは学部教授会で議論して承認している。承認の過程において、学部構成員及び職員の理解と支持は得られている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	特になし。
根拠資料	①3学科の学科会議議事録、学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	大学要覧(FUKUYAMA UNIVERSITY GUIDEBOOK)、HP、学生便覧により広く周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。

達成度	A
改善課題	特になし。
根拠資料	①FUKUYAMA UNIVERSITY GUIDBOOK2020)、大学ホームページ、学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	各学科で改訂が必要になった内容は、学部将来構想委員会、学部教授会において検証を行って中長期的計画にも反映できるようにしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した（各学科から改訂の検討について報告はなかった）。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	教育目的と3ポリシーは、2016年度と2017年度（心理学科）の学科の3ポリシー改訂したが、その作業時に各学科長と教務委員とともに参照した。改訂が必要な際には同様の検証
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した（各学科から改訂の検討について報告はなかった）。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	学部・学科の使命・目的および教育目的は、現代社会のこころの問題や文化・メディアの状況に関する事柄を掲げており、人間文化学科、心理学科、メディア・映像学科で構成される教育研究組織と整合はとれている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ（福山大学組織（教学組織）、人間文化学部）
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間文化学部

基準2. 学生**領域： 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応**

2020年度

人間文化学部

中長期計画	<p>学生の受け入れに関しては、収容定員充足率の80%台の必要性を強調しながら入試広報戦略を立てている。各学科の魅力、卒業後の進路を明確に示し、学科内容と強みである社会貢献について学外及び学内にもわかりやすく広報している。学部の受入学生数は増加傾向であるが、収容定員充足率に配慮して、過去の受験者数、入学手続き数、辞退者数の実績に基づいた定員管理を行っていく。</p> <p>学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応は、全学の方針に従って行っている。人間文化学部の独自性としては、学生サポーター制度を導入して仲間同士が助け合う活動を推進している。学修環境の整備については、学生が自由に利用できる拠点づくり(ラボラトリー構想)をここ数年間の課題としている。</p>
-------	--

2020年度

人間文化学部

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	大学教育センター主導のもとに全学で行った教育目的と3ポリシーをホームページで公開している。学生便覧にも記載している。アドミッション・ポリシーは入試広報で活用・配布される紙媒体にも記載している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①学生便覧、福山大学ホームページ（人間文化学部）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	受入れた個々の学生とアドミッション・ポリシーのミスマッチについては学科での教育活動や担任指導の状況から判断され、退学休学など学生異動や進級・卒業判定の場面で学部で共有し、意見交換を行っている。
年度目標	入学定員充足率が定員の1.2倍の180名を越えないよう、かつ、0.8倍を下回らないよう、総合選抜・指定校推薦型選抜の入学者の抑制、歩留率等を検証する。
年度報告	総合選抜（一般）について心理学科の受験者数を抑制した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①全学教授会（入試判定）議事録、②入学手続者表（入試広報室作成）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	2015年度外部評価の指摘を受けて、各学科の強みを伸ばして広報することで学部の入学定員充足率は安定的に推移している。入学時に行う入学者アンケートや入試広報室参事からの聞き取り等から増減の分析を行っている。
年度目標	入試広報室参事からの聞き取りと入学者、辞退者の分析（高校名、地域、試験得点、辞退理由など）、入学者アンケートを行う。
年度報告	コロナ禍のため、学部としてのまとまった入学者保証人対象のアンケートは行えなかった。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	コロナ禍の終息待ち、入学時に保証人対象のアンケートを実施し、検証のためのデータを集める
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。できていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	学部入学定員数150に近い入学者数となっている。ただし、メディア・映像学科は80%を割り込む状況である。メディア・映像学科は一般選抜において実技試験を導入するなどの対策を実施する。
年度目標	3学科が定員確保できるように学科の強みを活かした教育・社会貢献活動で広報しつつ、学科の入学定員充足率に基づいた合格者数の管理を行う。
年度報告	メディア・映像学科の入学定員充足率が高まるよう、学科の対策案実施(学科広報活動、入試選択科目デッサンの追加)を支援した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①メディア・映像学科学科会議議事録、②学生募集要項
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間文化学部

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	全学的な修学支援、生活支援、進路支援の方針に従っている。これらは学生便覧、ホームページ等で学生（留学生を含む）、教職員、社会に公表している。また、毎年開催される教育懇談会、就職懇談会では学生の保証人に対して、これらの詳細な説明を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	履修・学修支援について教務課職員と担任及び授業担当教員、就職支援について就職課職員と担任教員で協働し、学修体制の整備・運営を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①3学科のホームページ・ブログ、②学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	TA等を活用している。TA、SAの活用状況については心理学科とメディア・映像学科で記載。メディア・映像学科では複数学年の合同授業により、先輩が後輩を支援する学修方式を採用している。

年度目標	現状を維持
年度報告	コロナ禍のため、従来よりも活用場面は減少したが、活用可能なケースもあった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録 ②SA経費計画調書
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間文化学部

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	就職支援に関しては全学共通のキャリア教育、自分未来創造室、インターンシップなど、充実してきている。専門職への就職支援や進学支援は担任の教員が個別に指導している。なお、就職課と各学科就職委員は密に連携している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②学科別進路状況
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	3学科がそれぞれに検証をしている。
年度目標	各学科の検証情報を共有する。
年度報告	資料として就職先等の進路一覧は入手できたが、学科相互の情報共有は未実施である。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①卒業生進路一覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	全学の資格取得支援の補助及び全学で実施のインターンシップを活用している。これらの実施に教員は協力している。
年度目標	現状を維持
年度報告	コロナ禍の影響のない範囲で現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①資格取得支援センター報告 ②学科HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	各学科の就職委員と就職課との情報交換は綿密に行われ相互に協力的であることから指導は適切だと考えられる。また、地元優良企業等の内定者も多くいる。
年度目標	就職課と連携した進路指導を行うよう、担任に依頼する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①卒業生進路一覧
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間文化学部

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	福山大学独自の奨学生制度の他、日本学生支援機構、地方自治体（府県市町村）や財団・企業による奨学金制度もあり、年度はじめのガイダンスでも周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②入試のしおり
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。
現状説明	担任による個別面談の他、学部にはハラスメント相談員を置いて相談を受けている。ハラスメント相談員については年度はじめのガイダンスで周知している。また、教授会でもハラスメント防止について指示している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状説明に加え、ハラスメントに関するSD研修を学部独自に実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録 ②学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取り組みを行っていますか。
現状説明	3学科がそれぞれに様々な機会を設けている（3学科の現状説明参照）。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ ②学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間文化学部

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	全学的には長期ビジョン委員会の施設・設備部会、研究費等については学部長会で方針が決められている。学部としては毎年の予算申請において、学科会議で要望を聞き取り、学科長会議で調整を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①予算要求書 ②学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	3学科ともにICT教室、CLIFT、図書館を授業等で利用している。メディア・映像学科は1年次からBYODで普通教室でもICT教室（持ち込みパソコンに対応した学修室に改修済み）と同等の内容で授業を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①授業時間割、シラバス
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取り組んでいますか。
現状説明	バリアフリーとアメニティスペースの確保は、予算要求時に各学科で必要に応じて申請している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①予算要求書 ②学科会議議事録

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	収容定員と同程度の学生数を保っており、適切な人数・クラス規模で施設・設備を利用している。入学者数が増えた場合は対応を行う。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①予算要求書 ②学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	関連の規程、マニュアルに沿った研修を行っている。消防等による整備点検は全学規模で行われている。
年度目標	現状を維持
年度報告	全学で実施の点検及び訓練に協力した。コロナ禍の影響もあり、防災・防火のための学部研修は実施できなかった。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	対面形式の会議が可能となった場合は、防災・防火のための学部研修を実施する。
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	学生の安全衛生規程・委員会規程が施行され、福山大学安全管理の手引きが作成された。この手引きの中に劇物・危険物に関する管理システムについても記載がされている。劇物や危険物があればルールに従って管理する。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した（劇物、危険物に関する届け出はなかった）。
達成度	A
改善課題	劇物・危険物の使用者はいない。
根拠資料	①安全衛生管理の手引き ②学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	危機管理基本マニュアル、自然災害対応マニュアル、安否確認システムが整備されている。全学で実施する防災訓練に参加する。
年度目標	現状を維持
年度報告	全学で実施した訓練に協力した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①ゼルコバのお知らせ（緊急地震速報訓練の実施について）
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 人間文化学部

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	大学教育センター学修支援部門や学修支援システムを運用している共同利用センター及び教務委員会・学務部の活動や調査に協力している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。3学科がそれぞれに整備した体制を運用した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録 ②学生カルテ
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	担任の学生とは定期的に面談を行い、心身の健康についても確認している。定期健康診断の受診と、心理面での問題がある場合には保健管理センターを勧めている。また、日々のゼミ活動などでも気になる学生がいれば相談にのるという体制はできている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。3学科が適切に対応した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録 ②教員オフィスアワー表
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制や、その分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	各学科では担任による個別面談を通して把握している。問題点がある場合には学科会議、学部教授会で対応している。また、授業評価アンケート等の学生対象の自由記述等からも意見や要望を読み取っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間文化学部

基準3. 教育課程**領域：卒業認定、教育課程、学修成果**

2020年度

人間文化学部

中長期計画	学部の将来構想に合わせて教育課程・教育内容を、毎年度、点検する。学部内他学科専門科目16単位と他学部の自由聴講科目10単位、合計26単位の卒業単位数合算の適切性を検討する。また、教職課程は再課程認定に際して、人間文化学科の「英語」、心理学科の「公民」を申請しないこととして、人間文化学科は「国語」「地理・歴史」の教職に重点を置き、心理学科では公認心理師へ重点を移した。これらについて、毎年度、点検を行う。福山大学研究ブランディングに関し、備後圏域経済・文化研究センターの活動と教育課程の関係を検討する。
-------	---

2020年度

人間文化学部

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシーはホームページや学生便覧、大学要覧等の紙媒体で周知し、進級・卒業要件の単位数や修得すべき資質に関しては学生便覧に明記、Zelkova上でも取得単位は把握可能としている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②大学HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ルーブリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	大学教育センターの主導の下に各学科で検討し、学部教授会で承認し、評議会で審議している。単位認定基準は教員の案をシラバスチェック等の学科で点検作業を経ている。進級基準及び卒業認定基準は学科会議、学部教授会、評議会で審議し、学生便覧及び大学ホームページへ掲載して周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①学生便覧 ②シラバス
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	基準は学生便覧、シラバスに記載し公表している。進級、卒業認定は学科会議、学部教授会、全学教授会で審議している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間文化学部

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	3学科は教育目標・学位授与方針に即応したカリキュラム・ポリシーとカリキュラムマップを策定している。学生便覧、大学案内(Fukuyama University Guide Book)、ホームページに記載して学内外に周知している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②大学HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	2016年度、全学で3ポリシーの見直しが行われた。このとき、学部・学科でも整合性や一貫性を含めて検討、改訂し、評議会が承認している。したがって、両ポリシー間に一貫性が
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	3学科は教育目標・学位授与方針に即応したカリキュラム・ポリシーとカリキュラムマップを策定している。また、科目ナンバー制も導入し、より体系的に編成している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	大学教育センター共通教育部門の下、検討し、十分に実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	授業評価アンケート等に基づいて教授方法を検討している。ICTの活用についてはメディア・映像学科を推進役としてBYODを前提とした授業を展開している。

年度目標	人間文化学科と心理学科は現状を維持、メディア・映像学科では令和元年度に未実施のFD活動による情報共有が行われるよう、支援を行う。
年度報告	昨年度までの現状を維持したことに加え、遠隔授業や遠隔受講・対面受講の混在への対応など、コロナ禍への対応として各学科で様々な取り組みと検証を実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ ②シラバス
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシーに基づく資質をもとにしたアセスメント評価を行っている。卒業判定要件の一つである卒業研究についてもディプロマ・ポリシーに基づくルーブリック評価を行っている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①シラバス点検シート ②学生便覧（アセスメント・ポリシー） ②卒業研究ルーブリック評価表
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間文化学部

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメント・ポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	評議会で承認された全学、学科、個人のアセスメント・ポリシーの活用・運用について、その意義を学部教員が認識し、各学科が点検・改善活動へと展開を試みている段階である。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①シラバス点検シート ②学生便覧（アセスメント・ポリシー） ②卒業研究ルーブリック評価表
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックは、どのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	大教センターのアンケート結果を個々の教員が受け取り、教育の改善に役立てている。また、学科長が学科全体の総括を行い、大学HPに公開している。3学科が、必要に応じて、教育プログラム評価を行うよう、アセスメント・ポリシーに基づいた資質の達成度評価が行われている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①授業評価アンケート結果に対する報告書 ②セレッソ（資質（中項目）修得度） ③2020年度学科教育プログラム点検・評価報告書
次年度の課題と改善の方策	昨年度までの現状を維持したことに加え、遠隔授業や遠隔受講・対面受講の混在への対応など、コロナ禍への対応として各学科で様々な取り組みと検証を実施した。

2020年度

人間文化学部

基準4. 教員・職員**領域： 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援**

2020年度

人間文化学部

中長期計画	学部長、学部長補佐、学科長による学科長会議を中心に学部内のマネジメントを実施している。総合大学としての福山大学の一翼を担う人文系の学部として、将来にわたりその役割を果たせるよう、それにふさわしい人員の配置に努力する。メディア・映像学科への名称変更にあつては、それにふさわしい教育内容を検討する。人間文化学科は資格に重点を置いた教育の質保証をめざす。心理学科は2018年度から始まる、国家資格となる公認心理師の養成大学の要件を満たすように教育研究の充実を図る。これらを通して、学部・学科の定員充足に努める。また、設置基準上の人員を確保した上で、各分野で過不足のない人員配置をめざす。とくにメディア・映像学科は映像表現分野のスタッフを少なくとも現状維持する必要がある。人間文化学科は教員免許などの資格に重点を置いた教育が展開できるような教員の配置を維持する。なお、教員の資質向上のために各種研修会への参加奨励、科研費を含めた外部資金獲得による研修推進、海外及び国内の研究機関での長期留学を継続的に実施している。
-------	---

2020年度

人間文化学部

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	学校教育法の改正に伴い、学長のリーダーシップが最大限発揮できる組織改編が行われたため、その中で人間文化学部として学部長・学科長が、学長ガバナンスの下に大学の管理運営に貢献する意識を持って学部運営を遂行している。また、要請に基づき、意見を求められた場合には、学部・学科での議論を経て意見を取りまとめている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	学部長、学部長補佐、学科長による学科長会議、全学科教員を構成員とする学部教授会を中心に学長ガバナンスの下での管理運営を遂行している。全学の各種委員会に加え、全学の委員会を補完する学部委員会も設置している。各学科より推薦された委員等を学部教授会で審議し、役割分担できるよう決定し、機能させている。
年度目標	現状を維持
年度報告	
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネジメントの機能性を高めていますか。
現状説明	各教員・職員の職位などに基づき全学委員、学部委員に配置し、機能性を高めている。また、委員会等を通じて、学務部、学部事務室等と学部教授会及び学科会議との連携がはかれるよう配置・関係づけられている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録 ②学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間文化学部

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	全学の教員人事手続きに則り、教育目的及び教育課程に即した教員を選考して教授会、評議会で承認を得ている。教員の構成に関しては、年齢、性別ともに運営と継続性を担保できる陣容になっている。職階については設置基準を満たすように昇任を促進するように配慮して指導している。

年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①採用人事要望書、昇任人事及び非常勤講師承認願 ②人間文化学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	評議会で大学設置基準と現在の配置の表が配付され全学的に確認している。心理学科の公認心理師養成大学としての教員数も確保できている。教職課程は2018年度に再認定され、その数を維持している。
年度目標	現状を維持
年度報告	大学設置基準を満たす現状を維持し、教職課程等に関しては2020年度は兼任の要望を行い、要件を満たした。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①評議会資料（採用計画、兼任人事要望書）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development;教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	学部内にFD委員を2名任命して、学部独自のFDを実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した（遠隔授業に関するFD研修実施等）。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間文化学部

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development;教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取組みを実施していますか。
現状説明	大学で実施されるSD研修への参加を求めている。また、学部内で実施するFD活動への参加も呼び掛けている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した（全学実施のSDへの参加、学部独自のSD実施）。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	全学委員としてICT関係委員を各学科から選出している。また、PC必携化を全学に先駆けて取り入れてICT活用（個人所有PCの授業での使用、課題での活用等）の推進役となってい
年度目標	現状を維持
年度報告	コロナ禍への対応として、人間文化学部教授会はオンライン会議またはメール会議となり、ファイル共有やZoom/Teams使用等でICTの活用は進展した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間文化学部

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	研究室は確保できているが、研究専念時間は校務が多く確保できない教員もでてきている。個人研究費はランクがあり格差がある。ランクアップには科研費等外部資金の申請と採択が必要条件であるため、学部内に外部資金獲得推進委員会委員を配置して支援してい

年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①予算要求書 ②学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	学術研究倫理審査委員会と小委員会であるヒト倫理審査委員会及びそれらの規程がある。そして、2016年度、学部教職員と学生全員に研究倫理教育を実施した。2017年度からは、新任教職員、新入生にガイダンスで実施する。科研費の運用に関し、コンプライアンス推進責任者モニタリング実施要項を定め実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①コンプライアンス推進責任者モニタリング実施要項 ②人間文化学部教員メーリングリスト記録（ヒト倫理審査委員会委員からのお知らせ）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	研究実績に基づく申請を個人ごとに実施、学部長と学長が個人研究費と学会旅費の査定を行い、規定に基づき配分している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①個人研究申請書および使用状況
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	2015年2月に改訂された「福山大学『研究費ガイドブック』」をもとにコンプライアンス研修会が開催され、周知がはかられた。その後もコンプライアンス推進責任者である学部長が毎年1回研修を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2020年度

人間文化学部

基準6. 内部質保証

領域: 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル

2020年度

人間文化学部

中長期計画	人間文化学部自己点検評価委員会を中心に内部質保証のための体制を構築する。人間文化学部は収容定員が未充足であることから、学生募集及び教育・学生指導に関係する事項についてPDCAサイクルを重視する。2015年度に外部評価で高い評価を受けた社会貢献は継続強化し得るよう、備後圏域経済・文化研究センターとも連携して点検評価等による改善活動を強化する。また、教育研究の質を向上させることを目指すこととし、科研費等への応募と採択を増やすこと、在外研究を計画的に割り当てること、海外の研究者を受け入れること等についても重点をおいた自己点検・評価を起点とした改善活動を行っていく。
-------	--

2020年度

人間文化学部

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	全学のシステムに合わせて学部自己点検評価委員会を設置して責任体制を明確にしている。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。

達成度	A
改善課題	
根拠資料	①自己点検評価に関係する規程（福山大学自己点検評価規定、福山大学人間文化学部自己点検評価委員会細則）
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 人間文化学部

中点検項目 6-2. 内部質保証のための自己点検・評価

点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	2014年度に学部自己点検評価委員会を設置し、この委員会を中心に2014年度から自己点検評価を行っている。2016年度からは、自己点検評価のシステムも確立し、学部・学科の課題を検討している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部自己点検評価委員会メール審議資料 ②人間文化学部自己点検評価委員会資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	IR担当の学長補佐の下、IR室、IR推進委員会が組織され、全学的な調査、データの収集が行われようとしている。これに協力する。
年度目標	IR室の指針の下、データの収集と分析の具体的な活動に協力する。IRer養成講座等の活動参加の呼び掛け。
年度報告	コロナ禍の影響もあり、講座等の活動参加が不十分であった。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	IR室の指針の下、データの収集と分析の具体的な活動に協力する。IRer養成講座等の活動参加の呼び掛けを行う。

2020年度 人間文化学部

中点検項目 6-3. 内部質保証の機能性

点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	2014年度に学部自己点検評価委員会を設置し、自己点検評価を行っている。自己点検評価のシステムも確立し、学部・学科の課題を検討している。2017年度には日本高等教育機構の認証評価も受け、学生受け入れに関し改善勧告（メディア・映像学科）と努力要望（人間文化学科）の指摘があったものについては情報共有し、学生募集活動の改善を図っている。
年度目標	PDCAサイクルの成果の一つである改善状況を踏まえた機能性の検証を行う会議体を準備する。
年度報告	学科会議を中心としたPDCAサイクルによる改善活動とその効果を検証した成果として、学生受け入れに関する改善勧告（メディア・映像学科）と努力要望（人間文化学科）の対象となる数値レベルから脱する見込みとなった（2020年度末の見込みで、メディア・映像学科約0.8倍、人間文化学科約1.1倍）。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①自己点検評価書（本書類） ②入学手続状況表
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	2015年度に全学FD・SD研修で「科研費コンプライアンス研修」が実施され、誓約書を全員が提出し理解度テストを受けて検証した。また、2016年度以降については、学部教職員と学生全員に研究倫理教育を実施している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持。加えて、人間文化学部ではコンプライアンス教育（2020年7月8日）並びにハラスメントに関する研修（2020年12月16日）を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①人間文化学部教授会議事録

次年度の課題と改善の方策	
2020年度	人間文化学部
基準7. 福山大学ブランディング戦略	
領域: 「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価（本学独自基準）	
2020年度	人間文化学部
中長期計画	目指す方向として「里山・里海の自然の把握」「里山・里海の資源利用と経済循環」「里山・里海の歴史・文化的理解」「里山・里海のひと・まち・くらしの創造」の4つの研究テーマを設定し、2017年度文部科学省私立大学研究ブランディング事業には特に「里海」に焦点を当て申請して採択された。これに関する研究・活動を起点として研究組織である備後圏域経済・文化研究センターが設置された。研究センターの文化研究部門と連携して「瀬戸内の里山・里海文化の歴史解明と保存・継承に関する研究」を行っている。
2020年度	人間文化学部
中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	「鞆の浦学」、神辺周辺に重点をおいた「郷土研究プロジェクト」等を備後圏域経済・文化研究センターと連携して推進する過程において、ブランディング戦略の概略について学生及び教職員へ周知を進めている。
年度目標	各研究への参加を促すための説明会等において福山大学ブランディング戦略の概略も周知する。
年度報告	研究参加を促すための多数の学生を対象とした説明会等が開催できていない。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	各研究への参加を促すための説明会等において福山大学ブランディング戦略の概略も周知する。
点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。
現状説明	福山大学ブランディングとして、備後地域との密な連携のもとに教育・研究活動を進めているが、その中で「学問のみに偏重しない全人教育」も掲げており、人間文化学部は特にこの観点を重視して「鞆の浦学」、神辺周辺に重点をおいた「郷土研究プロジェクト」等の研究に取り組んでいる。
年度目標	現状を維持
年度報告	備後圏域経済・文化研究センターの研究活動及び各学科独自の研究活動を支援したが、コロナ禍により一部の取組は行えなかった。
達成度	B
改善課題	(コロナ禍の収束がみられない場合) 密集、密接を避けた、地域住民との交流方法の開発
根拠資料	①学長室ブログ (心理学科) ②備後圏域・文化研究センター規程、同細則
次年度の課題と改善の方策	(コロナ禍の収束がみられない場合) 密集、密接を避けた、地域住民との交流方法の開発
点検項目	③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。
現状説明	2015年度外部評価でも高く評価された社会貢献について継続発展させるとともに、協定校との交流を深めてグローバルな人材育成に取り組んでいる。
年度目標	現状を維持
年度報告	人間文化学科の協定校との交流、心理学科のPACE福山支部等の活動、メディア・映像学科の地域イベントへの協力等、現状の方針を維持した活動を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ「交換留学生から見た福山大学」、PACE福山支部にかかわる記事
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目指しています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。

現状説明	2015年度外部評価でも高く評価された社会貢献について継続発展させるとともに、福山市、広島県との連携事業に関して積極的に教員と学生が協働している。これらの成果は外部自己点検評価、認証評価、学部自己点検評価で検証している。
年度目標	現状を維持
年度報告	人文フェスタに代り、人間文化学科創設20周年記念冊子作成（学生と教員の協働）、地域犯罪ボランティアPACE福山支部の活動等、各学科で活動し、本自己点検評価において検証を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ 2020.12.07【心理学科】PACE福山支部が今年も地域防犯リーダー研修会で発表！ ②人間文化学科創設20周年記念冊子「Jin-Bun」
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	人間文化学科は「文化フェスタ」、心理学科は「地域安全マップ」「ひなた教室」、メディア・映像学科は「映画上映会」の企画実施や「軀の浦DeART」参加など学外での地域と関連のある活動を強く奨励している。これらの推奨項目に加え、就職活動やインターシップへの参加状況等の確認などを学科で評価・検証し、さらに自己点検評価の関連項目でも評価・検証している。
年度目標	現状を維持
年度報告	学生の関与する地域での活動は行っているが、卒業生の地域社会における職業人としての活動等の情報収集は行えていない。
達成度	B
改善課題	卒業生の地域社会における職業人としての活動等の情報収集は行えていない。
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	学生の関与する地域での活動を継続しつつ、卒業生の地域社会における職業人としての活動等の情報収集の方法を検討する。
点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	2015年度外部評価でも高く評価された社会貢献について継続発展させるとともに、福山市、広島県との連携事業に関して積極的に教員と学生が協働している。これらの成果は外部自己点検評価、認証評価、学部自己点検評価、学科会議で検証している。
年度目標	現状を維持
年度報告	地域での交流を中心とした活動が多く、今年度は十分には実施できなかった。したがって、成果について適切な検証はできない。
達成度	B
改善課題	コロナ禍等の不測の事態への対応
根拠資料	①
次年度の課題と改善の方策	活動可能な状況であることを確認した後、活動を再開する
点検項目	⑦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	人間文化学科は「文化フェスタ」、心理学科は「地域安全マップ」「ひなた教室」、メディア・映像学科は「映画上映会」の企画実施や「軀の浦DeART」参加など学外での活動を強く奨励している。これらの推奨項目に加え、就職活動やインターシップへの参加状況等の確認などを学科で評価・検証している。また、学生同士が支え合う「学生サポーター制度」を立ち上げ、紐帯性を高める教育に繋げている。
年度目標	現状を維持
年度報告	コロナ禍においても実施可能な活動を制限付きで実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学長室ブログ2020.12.07【心理学科】PACE福山支部が今年も地域防犯リーダー研修会で発表！ ②人間文化学科創設20周年記念冊子「Jin-Bun」
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑧ 福山ブランディング戦略は、これからも進化させて、さらに発展させることが必要です。ブランディング戦略のブラッシュアップにどのように取り組んでいますか。
現状説明	学科毎の取り組みとその自己点検の結果を学科長会議及び備後圏域経済・文化研究センターで検討し、ブラッシュアップを行う。

年度目標	2020年度に設置された備後圏域経済・文化研究センター及び経済学部と連携してブランディング研究を多様化していく。
年度報告	学科会議及び備後圏域経済・文化研究センターにおいて、検証し、改善した新たな活動案などが示された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学科会議議事録、備後圏域経済・文化研究センターHP
次年度の課題と改善の方策	

2020年度 人間文化学部

中点検項目 7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト

点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取り組んでいますか。
現状説明	メディア・映像学科を中心とする「鞆の浦」に加え、人間文化学科を中心とする神辺周辺に関する「郷土研究プロジェクト」の立上げ準備を行った。これらを推進している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学ブランディング事業報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	福山大学研究ブランディング事業予算を申請して予算化するとともに、科研費、行政や民間の助成金に応募を行う。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①令和3年度予算申請書 ②科研費申請書（研究計画調査）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	関連学会、学内での研究会、大学HPで発表している。
年度目標	現状を維持
年度報告	現状を維持
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①日本N I E学会第17回大会の発表要旨集録 ② https://www.fukuyama-u.ac.jp/human/psychology/psychology_faculty-member/
次年度の課題と改善の方策	